

I 陸運業における自動車運転者の労働災害

1 陸運業で働く自動車運転者の年齢別の割合

ポイント

陸運業で働く自動車運転者の年齢別割合は、若年者は年々少なく、中・高年齢者は年々多くなっています（図 1-1）。

陸運業で働く貨物自動車運転者を年齢別にみると図 1-1 のとおりです。

20 代、30 代の若い運転者の割合は減少しており、一方 40 代、50 代以上の運転者の割合は増加傾向にあります。

また、車両の種類別に年齢構成比を見たものは、図 1-2 のとおりです。けん引車、大型車では 50 歳以上の運転者の割合はほぼ変わっていません。

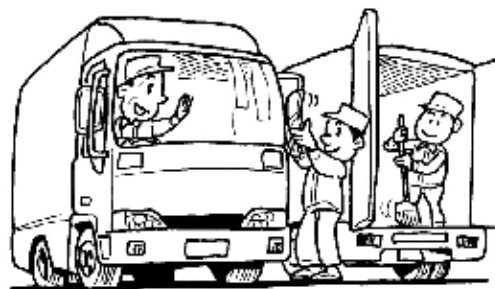


図 1-1 自動車運転者の年度別年齢構成（陸運業）

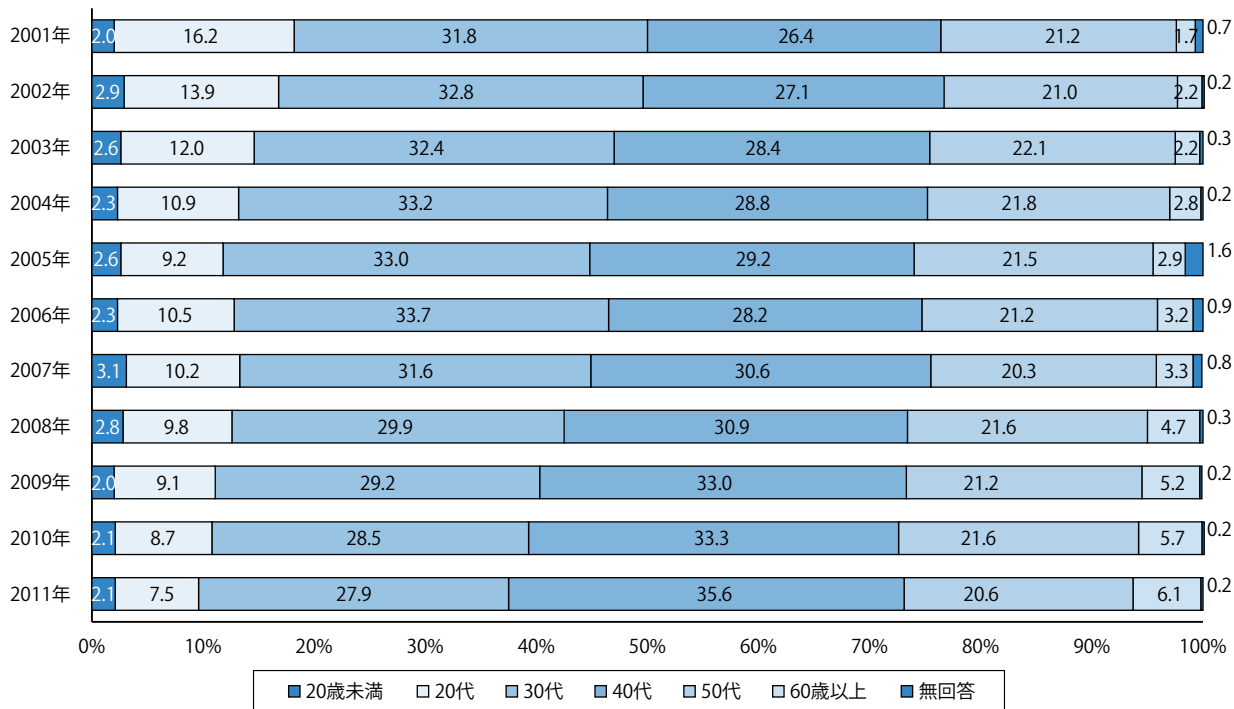
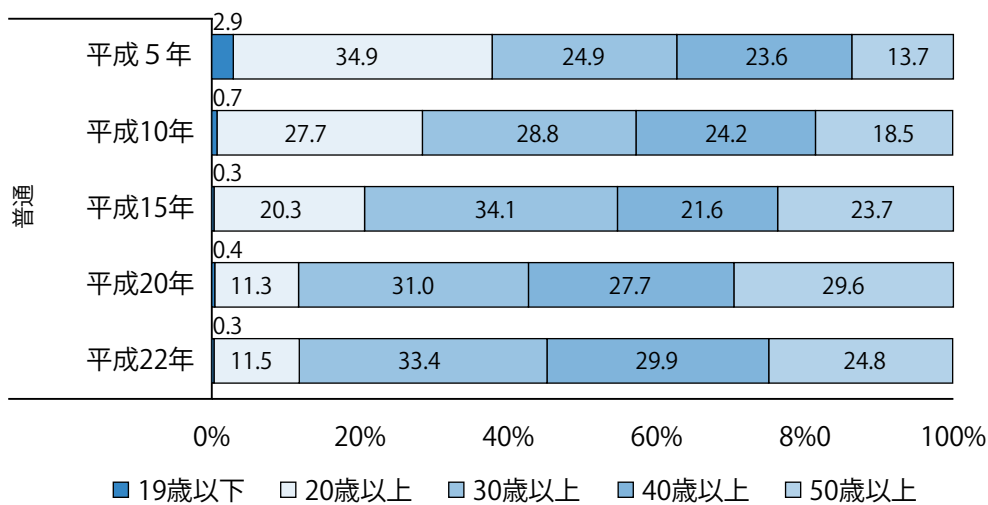
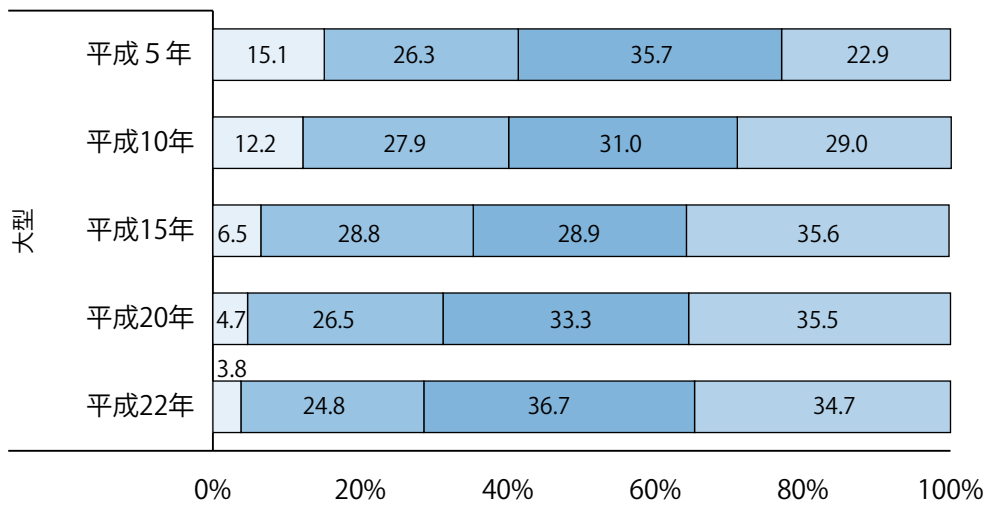
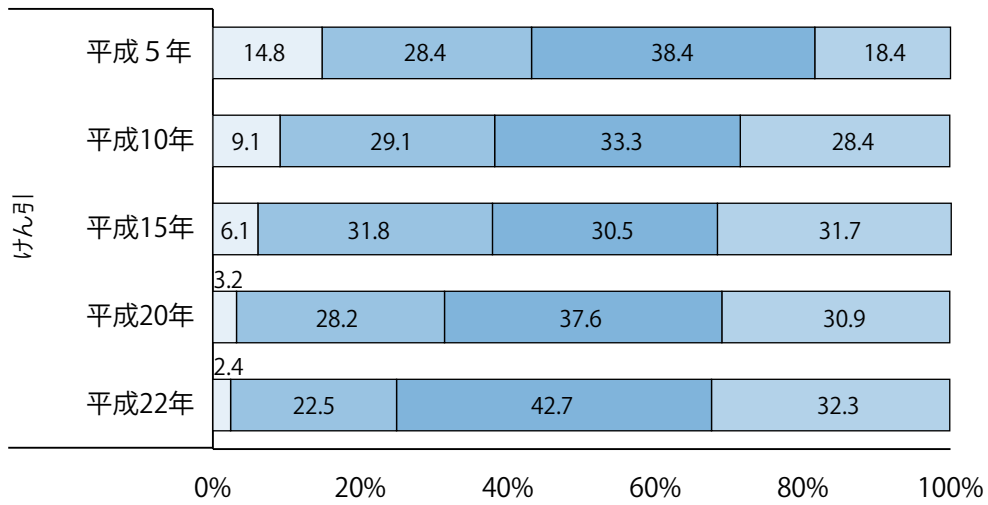


図 1-2 トラック運転者の車両の種類別年齢構成比



■ 19歳以下 □ 20歳以上 ■ 30歳以上 ■ 40歳以上 ■ 50歳以上

資料：全日本トラック協会「トラック運転事業の賃金状態」による。

2 陸運業における労働災害の発生

ポイント

労働災害の約8割は貨物自動車運転者が被災しています（平成21年、図1-8）。

平成23年の死亡労働災害は、交通労働災害が半数を占め、そのうち50歳以上の高齢運転者の占める割合は50%となっており増加傾向にあります（図1-5、表1-2）。

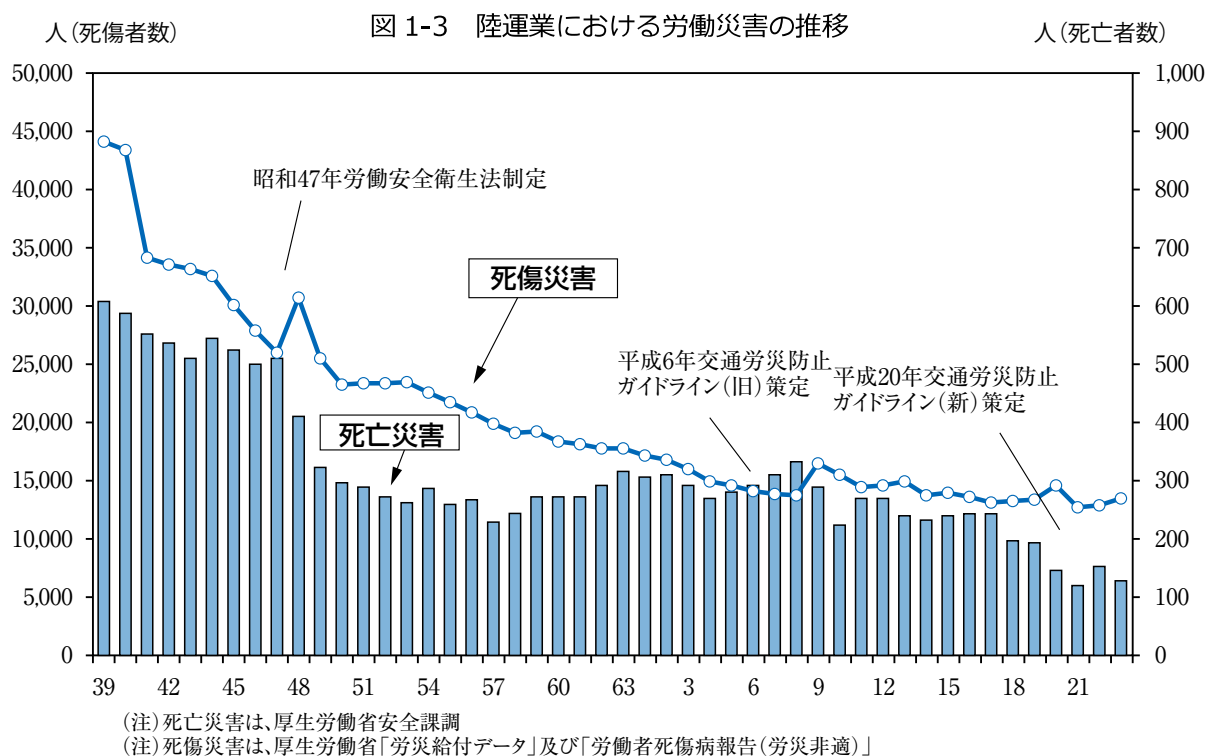
死傷労働災害は、平成21年の分析によると、荷役災害が7割を占め、荷台等からの墜落・転落が多くなっています。50歳以上の占める割合は、32%となっています（図1-10、図1-6、表1-3）。

(1) 労働災害の推移

陸運業の労働災害は長期的には減少傾向にあります。

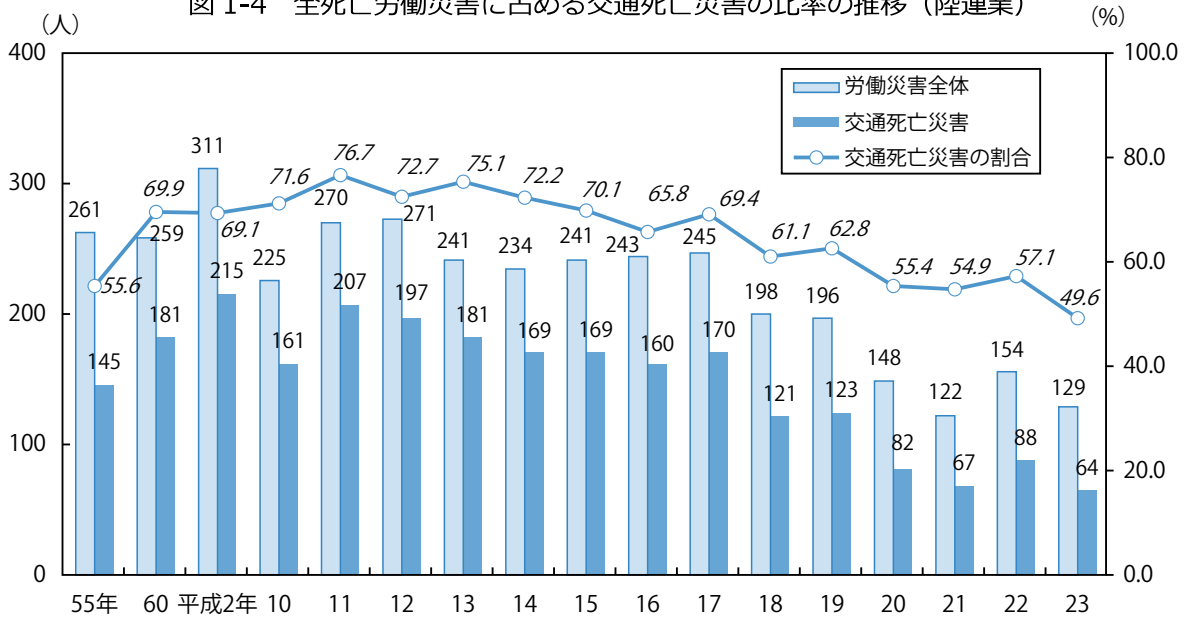
このうち、死亡災害については、一時増加した時期があるものの、最近では交通事故の減少により大きく減少が図られています。

一方、死傷災害（死亡及び休業4日以上）については、減少率が鈍化し、むしろ増加傾向となりつつあります。



死亡災害は、交通事故（交通労働災害）によるものが最も多いところですが、その占める割合は年々減少し、最近ではほぼ半数にまでに減少しています。貨物自動車運転者の死傷災害の原因をみますと、運転中よりも荷役作業中の墜落や転倒などが圧倒的に多いのが特徴です。高齢運転者の労災事故防止にはこの点に注意しなくてはなりません。

図 1-4 全死亡労働災害に占める交通死亡災害の比率の推移（陸運業）



(2) 事故の型別の割合

平成 23 年の死亡災害を事故の型別でみると、交通事故が半数を占め、次いで墜落・転落、はさまれ・巻き込まれとなっています。

また、死傷災害では、墜落・転落が最も多く 27%を占め、次いで転倒、動作の反動等となっています。

図 1-5 死亡災害の事故の型別割合

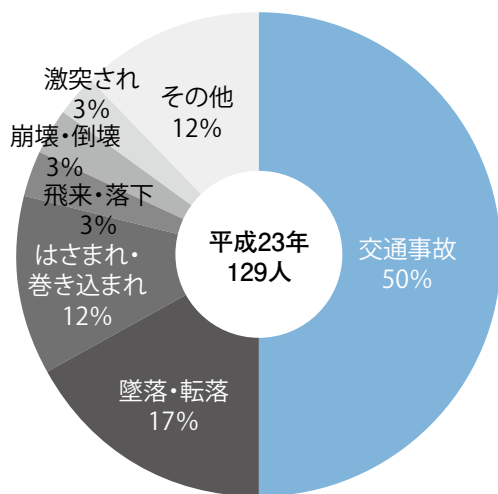
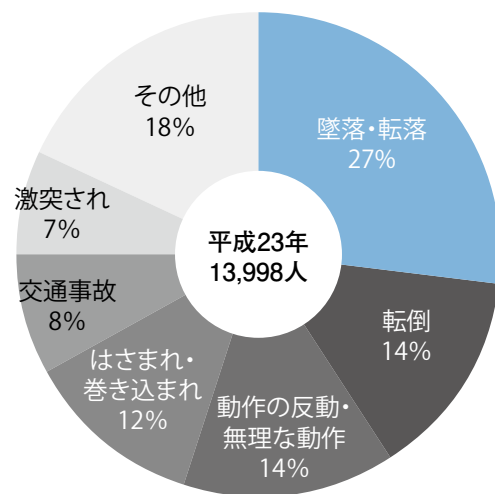


図 1-6 死傷災害の事故の型別割合



(3) 陸運業の死亡災害の詳細

ア 災害分類別年齢別の交通労働災害発生状況

平成 23 年の死亡災害は 129 人で、そのうちほぼ半数の 64 人が交通事故（交通労働災害）によるものです。この交通労働災害を種類別、年齢階層別に分類すると表 1-1 のようになります。50 歳以上は 32 人で 50%を占めています。

自動車に激突した 34 人についてみると、50 歳以上が 55.9%と多くなっています。

表 1-1 災害分類別年齢別の交通労働災害発生状況

(人)

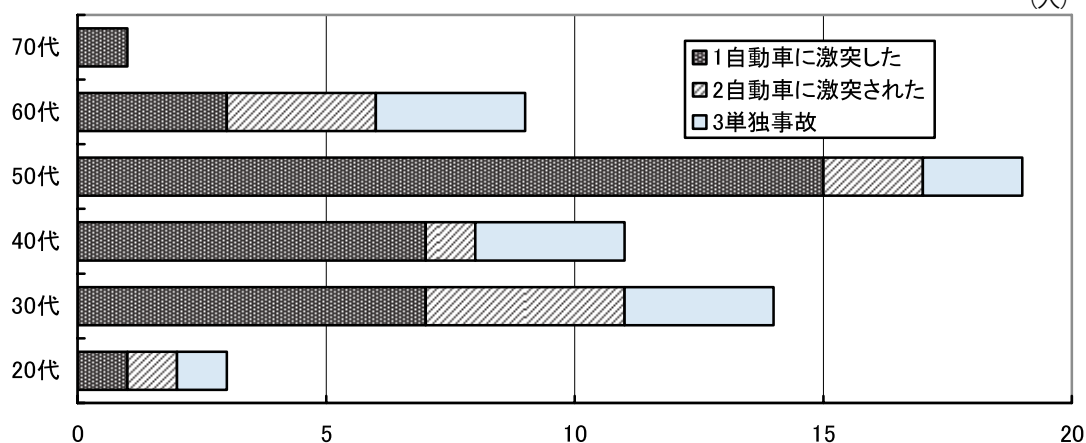
| 災害分類 1 | 災害分類 2 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 合計 |
|-------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 1 自動車に激突した | 駐停車中の自動車に激突 | | 4 | 5 | 4 | 2 | | 15 |
| | 走行中の自動車に激突 | | 3 | 1 | 6 | | 1 | 11 |
| | 対向車に激突 | | | 1 | 5 | 1 | | 7 |
| | 交差点で他車に激突 | 1 | | | | | | 1 |
| | 計 | 1 | 7 | 7 | 15 | 3 | 1 | 34 |
| 2 自動車に激突された | 駐停車中自動車に激突され | | 3 | | 1 | | | 4 |
| | 走行中自動車に激突され | | 1 | 1 | | 1 | | 3 |
| | 対向車に激突され | 1 | | | 1 | 2 | | 4 |
| | 計 | 1 | 4 | 1 | 2 | 3 | 0 | 11 |
| 3 単独事故 | 工作物衝突 | | 2 | 2 | | 1 | | 5 |
| | 路外逸脱 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 5 |
| | 転倒 | | | | 1 | | | 1 |
| | その他 | | | | | 1 | | 1 |
| | 計 | 1 | 3 | 3 | 2 | 3 | 0 | 12 |
| 4 踏切における事故 | | | | 1 | | | | 1 |
| 5 自動車外での作業中 | | | 1 | 2 | 2 | 1 | | 6 |
| 合計 | | 3 | 15 | 14 | 21 | 10 | 1 | 64 |

(注) 50代 21 人の内訳は、50～54 歳 14 人、55～59 歳 7 人である。

上の表の主な災害分類について年齢別に分析したものは次のグラフのとおりです。50 代が多く、また、その内訳は、「自動車に激突した」が最も多くなっています。

図 1-7 主な災害分類別年齢別の死亡交通労働災害発生状況

(人)



イ 交通労働災害における高年齢労働者の死亡災害発生率比較

死亡労働災害の発生率を 50 歳未満と 50 歳以上で比較すると、労働災害全体でも、交通労働災害でも 50 歳以上の年齢層の占める割合が高くなっています。

表 1-2 交通労働災害の高年齢労働者の死亡災害発生比率等

| | 平成 21 年 | | 平成 22 年 | | 平成 23 年 | |
|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| | 50 歳未満 | 50 歳以上 | 50 歳未満 | 50 歳以上 | 50 歳未満 | 50 歳以上 |
| 労働災害全体 | 59% | 41% | 51% | 49% | 47% | 53% |
| 交通労働災害 | 64% | 36% | 59% | 41% | 50% | 50% |
| (件数) | 43 人 | 23 人 | 52 人 | 36 人 | 32 人 | 32 人 |
| 運転者比率 | 73.3% | 26.4% | 72.6% | 27.3% | 73.1% | 26.7% |
| 比較災害率 | 1 | 1.5 | 1 | 1.8 | 1 | 2.7 |

(注) 比較災害率：交通労働災害件数を運転者比率で割ったものを、50 歳未満を 1 として比較したもの。

ウ 死亡災害事例（平成 23 年陸運業）

平成 23 年に発生した高年齢運転者の労働災害による死亡の事例を紹介します。交通事故だけでなく、荷役作業中の災害も発生しています。

(交通事故)

- 3 t 積トラックに荷を積んで、自社へ向けて中央自動車道を走行中、パーキングエリアの進入路に入ったところ、進入路の右路肩に駐車中の大型トラックに気づくのが遅れ追突した。(54 歳)
- 片側 2 車線の国道の走行車線において、事業場に戻る途中の被災者が運転する 2 トントラックが、信号待ちをしていた 15 トントラックに追突し、胸部を打った。(64 歳)
- 県道交差点において、被災者の運転する中型貨物トラック（最大積載量 2.6 t）が、対向車線を走行していた大型貨物トラックに衝突したもの。なお、被災者の運転するトラックが対向車線にはみ出し衝突しているが、被災者が右折しようとしていたか、何らかの理由で単に対向車線にはみ出したかは不明。(62 歳)
- 荷先から次の集荷先へ向かうためトラック（7 t）を運転中、国道に進入したところ、3 台の車とガードレールに衝突後、緩い下り坂を 60 m 程走行し、ガードレールを突き破り、約 4 m 下を併走する町道に落下し頭部外傷となった。(71 歳)

(墜落)

- 荷降ろし先でトラック（積載荷重 8 トン）に積まれた荷を卸す作業中、トラック荷台の荷物の上（高さ 2.6 m）に乗り移動していたところ、足を踏み外しそのまま地上へ墜落した。なお、被災者はヘルメットを着用していなかった。(54 歳)
- 午前 0 時 40 分ごろ、市場内において、大型トラック（ウイング車、11 トン）の荷の積卸作業を行っていたトラックの運転手が、トラック荷台の下で、意識不明の状態で見つかる場所を発見された。トラックの荷台または積荷の上から墜落したものと推定される。(63 歳)

(4) 陸運業の死傷災害の詳細

ア 平成 21 年災害要素分析の結果

厚生労働省が平成 21 年の陸上貨物運送事業の労働災害について詳細に分析した結果は次のとおりです。

- ① 職種別では貨物自動車運転者が 78.1%と多くを占めています（図 1-8）。

② 被災した場合の災害の程度（傷病程度）は、休業1か月以上（死亡、労働不能を含む）が55.1%を占め、一旦災害が発生すると重傷になる場合が多いことがわかります（図1-9）。

図1-8 職種別の災害（平成21年）

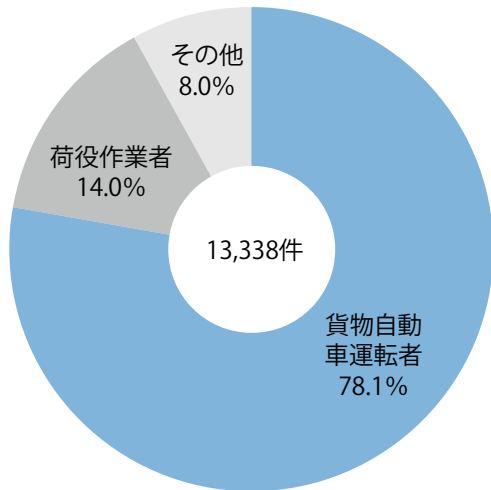
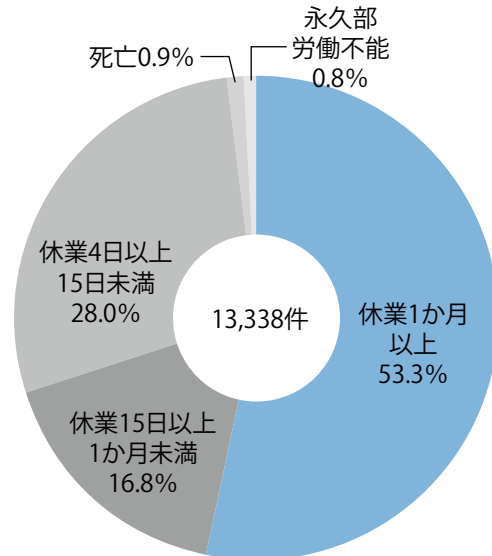


図1-9 傷病程度別の災害（平成21年）



③ 作業の種類別に災害の発生状況をみると、人力荷役作業が64%と2/3近くを占めています（図1-10）。人力荷役作業では、積み卸し作業が54%を占めています（図1-11）。その積み卸し作業の中では墜落・転落災害が最も多く34.3%を占めています（表1-3）。

図1-10 作業の種類別災害発況（平成21年）

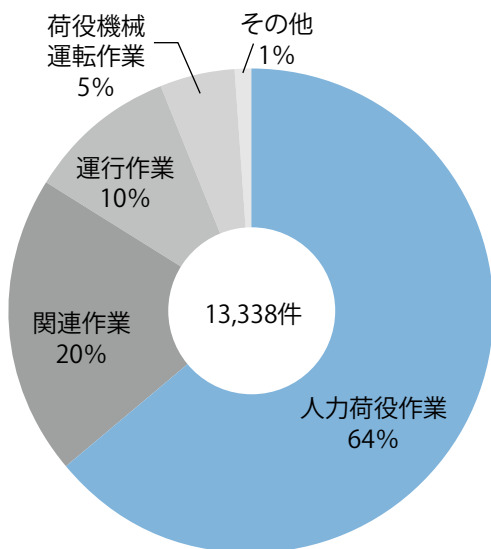


図1-11 人力荷役作業の内訳

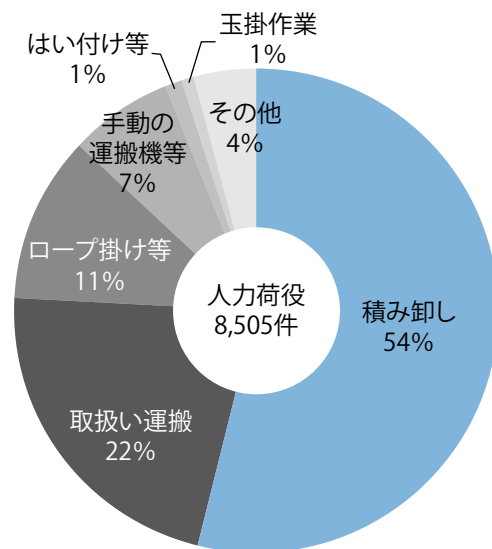


表1-3 積み卸し作業の事故の型別内訳

| 事故の型 | 全体 | 墜落、転落 | 激しい動作 | 激突、激突され | 飛来、落下物にあたる | はさまれ | 転倒 | その他 |
|-----------|-------|-------|-------|---------|------------|------|------|-----|
| 積み卸し作業(件) | 4,551 | 1,563 | 720 | 600 | 594 | 486 | 468 | 120 |
| 比率(%) | 100 | 34.3 | 15.8 | 13.2 | 13.1 | 10.7 | 10.3 | 2.6 |

- ④ 貨物自動車の運行作業に関する災害は、全体の 10.5%と多くはないですが、その内訳は表 1-4 のとおりです。

表 1-4 運行作業災害の事故の型別内訳

| | 全体 | 道路交通 交通事故 | 激突、激 突され | 墜落、 転落 | 転倒 | はさまれ | 激しい動 作 | 飛来・落下 物にあたる | その他 |
|--------------|-------|--------------|-------------|-----------|-----|------|-----------|----------------|-----|
| 貨物自動車運行作業(件) | 1,197 | 906 | 81 | 69 | 54 | 24 | 18 | 6 | 39 |
| 比率(%) | 100.0 | 75.7 | 6.8 | 5.8 | 4.5 | 2.0 | 1.5 | 0.5 | 3.3 |

- ⑤ 年齢階級別の災害発生は、表 1-5 のとおりで、50 歳以上は 32.3%を占めています。

表 1-5 年齢階級別災害発生状況

| 年齢階級 | 合計 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|-------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人数(件) | 13,338 | 111 | 1,437 | 3,636 | 3,798 | 3,042 | 1,257 | 57 |
| 比率(%) | 100.0 | 0.8 | 10.8 | 27.3 | 28.5 | 22.8 | 9.4 | 0.4 |

イ 災害事例

平成 21 年の陸運業における高年齢自動車運転者の死傷災害事例を紹介します（厚生労働省職場の安全サイト“労働災害データベース”より）。

（運転席から降りる際に負傷した事例）

- 構内において、トラックを所定の場所に駐車して運転席から降りた時、バランスを崩し、左足に体重がかかり負傷した。(54 歳)
- 荷主先で商品を卸すため、大型トラック（10t）の運転席から降り、地面に足を着いた瞬間、左足の筋肉を痛めて激痛が走り、動けなくなった。(56 歳)
- 5t 車を運転し、荷卸し現場に到着して、運転席から降りた時、右足を捻ったために、右足指に重心が偏り、骨折した。(61 歳)

（洗車時に墜落・転落した災害）

- 営業所の駐車場において、脚立（高さ約 2.5m）に登って大型トラックを洗車している時、足を滑らせて転落し、右の手足を地面（アスファルト）に打ちつけ、手首と足を骨折した。なお、作業中、ヘルメットは着用していた。(58 歳)
- 車庫において、脚立上で大型車の洗車作業中、脚立（2 段目）から足を踏み外して転落した。その際、右足を骨折した。(60 歳)

（荷台アオリからの墜落）

- 荷積みが終り、道路に車両を止めてロープで荷締めをする時、アオリの上に乗る、積荷にアテを付ける際、アオリの上の足が滑りバランスを崩し落下した。その際、路面にあったパレットの角に足を強打し、足を骨折した。(60 歳)